

## 令和一時代の始まり

日本では、新しい天皇が即位するたびに新しい時代が生まれます。令和時代は2019年5月に始まりましたが、その名前の由来は立体模型に描かれている有名な梅の開花の宴にあります。

三十二首の序文にあることが万葉集に書かれていました。

この時代を構成する2つの漢字「Rei」と「Wa」は、序文から引用されています。

2番目の文字「wa」の意味は明確です。「静けさ」または「調和」です。最初の文字「rei」は、通常、現代の日本語では「命令」または「順序」を意味しますが、問題の万葉集では、「美しい」または「縁起の良い」を意味します。

例えば、このように最初の2行に書かれています：

初春の令月にして、気淑く風和ぎ・・・

この雰囲気は、梅の開花の宴そのもの、あるいは社会全体の開花を暗示しているのかもしれませんが。外国の文化を歓迎することで知られる太宰府で創作されたという意味も大きいです。

その意味で、文字の背後にあるニュアンスは、強固な国際関係、グローバル化、異文化への正しい評価を褒め称える時代を暗示しており、日本社会と日本の未来をととても前向きにとらえている。